

デザイン視点を加えた医療機器等開発支援事業（第2報）

－医療福祉分野にデザイン視点を盛り込む－

Project for development in the med and welfare field, incorporating design perspective (2nd Report)

- Incorporating a design perspective into product development in the med and welfare fields -

小野 大輔、工藤 洋司、宮下 育也*、葛西 裕*

(*工業総合研究所)

県が推進する「青森ライフイノベーション戦略」により、これまでも「メディカルトイの開発」など医療福祉分野への取組みを行ってきた。本事業は一昨年度の「コメディカル視点の製品開発強化支援事業」で推進してきた事象を具体化する過程の2年目である。医療福祉現場の中で必要とされているニーズに応え、県内企業が持つシーズを活かした福祉分野の製品開発と商品化を目指しており、デザイン視点を加えた開発手法の習得を目標としている。

(1) 医療福祉デザイン研究会（R2.5/19、7/29、11/17、R3.3/4 開催）

4回の研究会を、新型感染症対策としてウェブ会議システムも併用し開催。一次試作品の評価方法の検討、製作した試作品等についての評価、改良アイデア抽出などを実施した。

(2) 試作品の評価検討

椅子について、前年度までに製作した一次試作品を用いた機器測定、試用による評価を行った。そのほかの試作品については、研究会での議論を通じてブラッシュアップを継続して行なった。

(3) 椅子二次試作品の設計、商品化改良、製作（委託）、評価検討

一次試作品の評価結果を踏まえ、寸法や要件に見直しを加えた改良設計を行った。更に、素材、製作手間等、研究会会員企業による製造者視点からの変更を加え、商品性を向上させた二次試作品を完成させた。

(4) 商品化とビジネスモデルの構築

試作した製品は、研究会会員企業により商品化し販売予定である。また研究会における一連の流れはビジネスサイクルとして成立しており、商品開発手法のひとつとして今後、応用を図る。

本事業では、福祉施設関係者、製造事業者や販売事業者などで構成する医療福祉デザイン研究会を立ち上げた。これにより現場ニーズを企業の技術シーズと結びつけつつ、忌憚ない意見交換ができる場を作ることができた。これまで医療福祉分野に関わる機会の少なかった県内木工・工芸企業等と共に、新市場に向けた製品の試作、評価、改良を行い、着実に商品化に向けた活動を進めることで、新しい販路や顧客の開拓が期待される。対象分野等これまでにない製品に繋がっているため、引き続き研究と開発支援を行う。



写真 研究会の様子

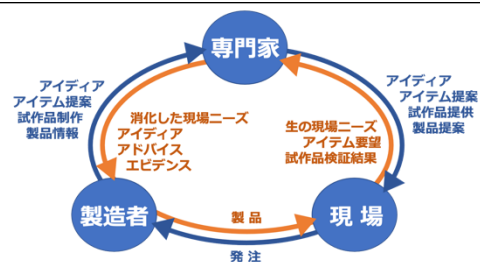


図 研究会＝ビジネスモデルの模式図